



アコースティックバンド「テノヒラ」のボーカル 愛南町出身の kiku さんがつづるふるさとエッセイ

## — あいなん音故地新 —

### いくらでも

「いくらでもいいですよ」と、言いがちな私。先日、これで苦い経験をする事となる。しかも2度も、立て続けに…。

私はできることが多いほうだ。これは自慢でもなんでもなく所謂『器用貧乏』というやつ。それもあって、お願いされることが多い。ちょっとやってよ、ちょっと貸して、これ作って、ここの手伝ってよ。器用貧乏とは言え、できるようになるまではそれなりに費やしたものがある。時間、お金、労力…それを積み重ねた結果の『今』。お願いする側はそんなことを知る由もなく、悪気なんてない。私が断ればいいだけの話や。けど、断れずにきてしまった。

一度受け入れると、それでいいと思わせてしまうし、それがいつのまにか当たり前になる。角度が1度ズレたら先に進むと距離が開いていく、あの感覚に似とる。そして、その原因は間違いなく自分であって、積み重ねてきた経験やスキルを安売りしてしまったことを、自分自身に申し訳なく思った。自分の価値は自分で決める。何回もそう言い聞かせてきたはずなのに。

「いくらでもいいですよ」といいながら、自分の中には最低ラインもあって、相手がそれを下回ってきたときの虚しさ…。それならはじめから希望を提示すればいいのにね。言いづらいけど、自分を守るためには大事なことやね。

(テノヒラkiku)



御荘文化センター図書室より

## “6月の新着図書ピックアップ”の紹介

### 【漫画絵本】

『夜廻り猫の雑貨店』

深谷 かほる (作)

ポプラ社 (発行)

頭に猫缶、はんでん姿、「泣く子はいねがー」と毎夜歩きまわり、傷つき涙する者を励ます灰色の野良猫、遠藤平蔵。ある日、いつも一緒に夜廻りをしていた子猫の重郎が姿を消した。平蔵とニヒルな野良猫ニイは必死に探すが見つからない。必ず帰ると信じて、二人は重郎を探すために雑貨店を開くことにする。



### 【小説】

『別れを告げない』

ハン ガン (著)

白水社 (発行)

第二次大戦後の1948年4月3日、南側だけの単独選挙に反対した済州島の島民が、本土から送られてきた軍・警察などにより虐殺された済州島四・三事件。虐殺に関する本を出したキョンハと四・三事件を生き延びた母親を持つインソン。夢とも現実ともつかない中で二人は語り合い、いま生きる力を取り戻す。



御荘文化センター図書室では、毎月「御荘文化センター図書室だより」を発行しています。図書室だよりを通じてピックアップ図書以外の新着図書情報やそのほか新しい情報を皆さまに発信しています。町のホームページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



愛南町  
ホーム  
ページ